

# 未来を開く

長井市立長井北中学校

No45 令和7年3月14日

## 第43回卒業証書授与式を挙

### 【校長式辞から】（抜粋）

最強寒波が何度か長居した冬も終わり、春の息吹がひしひしと感じられる毎日となりました。本日ここに、ご来賓の皆様、保護者の皆様のご臨席のもと、第四十三回 長井市立長井北中学校 卒業証書授与式を挙行できますこと、誠に喜ばしく、心より御礼申し上げます。

保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。これからは、初めて自分で決めた道を進むこととなります。夢の実現に向けて、更にお子様を見守り、支えていただければと思います。これまでの三年間、本校の教育にお寄せいただきましたご理解とご協力に、厚く御礼申し上げます。

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。義務教育の課程を修了し、これからは、自分で決めた道を自らの意志と責任で進まなければなりません。皆さんがこの日を迎えることができたのも、皆さんの家族の愛情と支えがあったからです。卒業にあたり、感謝の気持ちを伝えましたか。まだの人は、必ず伝えてください。どんな言葉であっても、家族にとっては、何にも代え難いうれしいものとなるはずです。

卒業証書を受け取る皆さんの顔を見ていると、この一年間の皆さんの活躍が脳裏に浮かんで止みません。

スローガンを「Vivid」、目指す北中生の姿を「一人一人の個性を大事にできる北中生」として取り組んだ生徒会活動。特に今年度は、ブレザー型制服の導入や部活動の任意加入制の開始に見られるように、学校生活が大きく変わった一年となりました。このことを受け、一人一人の

選択や思いを尊重し、認め合うこと、それを本気で応援することが大切だとして「尊重」を生徒会の重点にし、活動を展開してきました。確実に「尊重」の心は、北中生の中に広がったと実感しています。

昨年度の卒業生から引き継ぎ、一年かけて取り組んできた校則改正を成し遂げたことも大きな功績です。多様性と包摂性という社会のうねりの中で、中学校における校則改正は全国的な流れとなっています。真剣な議論を繰り返し、改正へと導くことができました。その過程で確認された思いや願いは、一・二年生、これから先の後輩へときっと受け継がれることと思います。

仲間とともに切磋琢磨し、励まし合った部活動やクラブ活動。皆さんのあきらめない直向き（ひたむき）な姿は、応援している他の北中生、保護者の皆さんに感動と元気を与えてくれました。

これらの功績の中心には、常にリーダーシップを発揮し、模範としてのあるべき姿を追求してきた卒業生の皆さんがいました。その姿を目に焼き付けてきた一・二年生は、きっとその思いを受け継ぎ、北中の更なる発展のために力を尽くしてくれるものと思います。

新たな道を歩み始める皆さんに、二つの励ましの言葉を送ります。

一つ目は、「学び続ける」ことです。今、世の中は加速度的な速さで変化し、模範となるモデルや正解が明確に見出せない時代です。近い将来、そんな社会の中心を担う皆さんは、それぞれの場所や立場で、自分なりの価値を見つけたり、目の前の問題を解決したりし、生きていかなければなりません。その原動力となるのは、今皆さんが学んでいる知識と技術、それを基にした創造力、協働する力です。いくらAIが発達し、自動的に答えが出てくるようになったとしても、それが適切なのか読み



解き、判断する力が必要です。そのためにも、生涯に渡って学び続けることを大切にしてほしいと思います。いつも言っていましたが、学んだことは自分の中にずっと蓄積されます。学んだことの多い方が、人生の選択の幅や問題解決の可能性が広がります。何より、人生がより豊かになります。

二つ目は、「誠実で寛容な心を持つ」ことです。卒業生の皆さんは八十五名の仲間と、時にはぶつかり、時には共感し、距離を遠くしたり、近くしたりしながら、成長してきたと思います。その過程の中で、誠実に仲間に向き合い、お互いの信頼関係を築いてきました。信頼関係を築くために他の人に、物事に誠実に向き合う生き方を生かしていきましょう。また、そこには寛容な心があったはずで、自分を大切にするのはとても大切なことです。しかし、自分中心主義では調和がなくなり、うまく行くこともうまく行かなくなってしまいます。他の人や社会に対して寛容な心を持ち、社会を形成する一人として広い心を持って行動できる人で居続けてください。

卒業生の皆さん、新しい時代を担うのはあなた達です。長井市、山形県、そして日本、世界を創る一人として、更に頼もしく成長を遂げてください。「君たちが見上げる空は どこまでも続き 輝いています。同じ空の下どこに居ても 君たちは いつも繋がっています。」

皆さんの輝かしい未来に幸多かれと祈り、式辞といたします。



